

令和3年度保育所自己評価

I. コロナ対策と保育

コロナ感染予防の為、色々な配慮をするようになり二年目を迎えたR3年度。感染状況としては、保護者の感染があり、それに伴う子どもの欠席が多かった。職員は2名ちょっとずれての感染で勤務ができない日が重なり、職員の配置が難しい時期があった。みんなの協力体制のおかげで乗り切る。その後、小・中学校での子どもの感染者が出るようになり、家庭内感染で休む子も出てきた。職員も家族の濃厚接触者として休まなければいけない状況となることもあった。

国の対応策が変わり自宅待機の日数が短くなったり、国からの抗原検査キット配布の為、早目の復帰が出来るようになる。感染防止対策は気を緩めずに常に子ども達、職員の体調には充分気を付け、気になる症状があった時は早目に休むなどして防いでいった。

日常の保育の質は落とさず、行事の期待感、意欲、楽しみは大事にし、日常の保育がより充実出来るように推進したい。

結果、行事の見直し(簡素化)をして、日常の保育のより充実化を図るきっかけとなった。

① コロナ禍における行事について

・入園式・・・昨年同様(時間短縮、人数制限の中で実施～新入園児及びその保護者・年長児出席)

・夏まつり・・・平日実施、保護者参加なし、園児のみで実施

おみこしまわり、盆踊りは以上児・未満児で日程を変えて行う。

お店屋さんごっこは、時間差で同じ日に全園児体験し、楽しむ。

※年長児のみ、土曜日1時間程度、保護者(1名)の参加も含めて、おみこしまわり、親子盆踊り、竹太鼓演奏披露を行う。保護者参観、親子のふれあいもあり、よい思い出となったようだ。

・運動会・・・以上児、未満児に分かれて行う。

未満児は平日夕方のお迎え時の時間を利用して、日頃の運動あそびを親子一緒に取り組んだり、各年齢に合わせたうんどう遊びやわらべうたをしたりする。

以上児は午前中実施(保護者:年長2名・年中1名・年少1名参加)

・のばらっこの会(発表会)・・・以上児、未満児に分かれて行う。

未満児はクラス別に夕方40分程度実施。1・2歳児は劇遊びごっこを行ったりする。又、1日の「生活と遊び」をビデオに撮ってもらい、保育参観ができなかったが、園での様子が見られ、保護者の理解にもつながり、とてもよかったと感想がよせられた。各クラス小単位で実施したので、親近感、充実感があった。

以上児は発表会当日入れ替え制とし、各クラス1時間ずつ発表。最後に年長児発表を行い、感染防止と会の充実を図った。

・卒園式・・・年長児のみ 保護者1名出席

まとめ

イ) 行事については子ども主体に工夫しながらも例年通りに実施できた。

ロ) 保護者参加についてはあらゆる面(参加者の人数制限、実施時間の短縮、会場の使い方等)で検討した。

ハ) 実施当日の配慮・・・問診票の記録・検温・マスク着用・手指の消毒等、充分に行なう。

ニ) 実施後、保護者から出た感想集を渡し、新しい行事の在り方の共有を図った。

以上のことに注意・配慮して、行事における園児の成長、喜びや保護者とのつながりに生かしていった。

② 日常保育についての配慮

・三密を出来るだけ避ける対策(特に送迎の仕方・食事中・午睡中ホールも保育室として利用)

・クラス毎の保育、極力入り交じらないで小単位で動く。

・換気、オゾン機、殺菌消毒、手指の洗い、備品・玩具の消毒

・3歳以上児のマスク着用のすすめ ・室内の換気を時間毎にする。

③ 評価反省

- イ)行事の縮小化により、保育者に時間的余裕が出て、日々の生活や遊び、活動をより充実することが出来た。又、保育者の働きやすさにもつながり、特に家庭を持っている保育者の定着につながってきた。
- ロ)3歳未満児クラスは、クラス毎小単位で発達に合わせて行事内容を工夫した。クラス懇談も出来づらかったので、行事の時に顔合わせをし交流を図った。大半好評だった。

II. 保育の質の向上(研修)

- ・研修…リモート研修を沢山行うことができた。見逃し配信で1ヶ月程期間があるので、土曜日を利用して短時間勤務の先生にも研修に参加してもらうことができ、共通の学びができ、保育の質の向上につながっていった。

主な研修名	①人権保育基礎講座(全3回)子ども人権を「守り」「育む」(常磐会短期大学 ト田真一郎先生)
	②保育の専門性に基づく保育者の関わりとは(東洋大学 高山静子先生)
	③保育、幼児教育におけるリスクマネジメント 「組織力」と「保育の質の向上」が子どもの命を守る(名寄市大学匿名教授 猪熊弘子先生)
	④「育ちの根っこを見るススメ」(生きる力共育研究所 立川結希子先生)
	⑤保育環境作りの基礎(まどか保育園園長 樋口正春先生)
	⑥園内コミュニケーション(口答)のルール(掛札逸美先生)

- ・わらべうた指導… 廣渡先生に三園各クラスの園児を対象に実践指導していただく。3年度は、クラス担任がわらべうたを行い、廣渡先生より助言をいただくことも取り入れた。自分が実践することにより、より深く学べて次からの実践に生かすことができた。
- ・公開保育… 野ばらと第二の未満児クラスの公開を実施。後半の分園の公開保育は、コロナ感染が蔓延していた時期と重なり行われなかった。
- ・重点課題の討議…職員会議に重点課題コーナーを設け、発表し合うことにより、更に保育の視野と深みをつけ、ミッションを高め合うことが出来た。

園内研修	①コダアイ研修で学んだこと…乳児の育児と遊びについて
	②安田式体育あそび学習会…実践したことをビデオで送り、リモートによる指導と研修
	③ { 立川先生「育ちの根っこをみるススメ」 樋口先生「環境構成の考え方」 猪熊先生「保育、幼児教育におけるリスクマネジメント」 } 研修を受けての、職員同士の意見交換
	④支援児に対する研修 各種研修・園内研修・保育所訪問(リハビリ発達支援ルームかもん)の鴨下先生による個人的指導は、支援時取ってかなり効果があり、職員の学びにもつながった。

III. 人材確保

- ①3年度秋より、短時間保育士を追加採用ができ、待機児童の受入れや、支援児の充実を図ることができた。
- ②新卒保育士2名採用・試験保育士1名・栄養士1名採用(令和4年4月)
熱心な四大学生さんが自主実習で継続的に来てくれて、交流を図ることができ、採用につながった。
- ③副主任を迎えることができ、以上児保育の充実、園全体の研修推進を図ることができた。(野ばら)

IV. コリックス分園の保育推進

- ・月1回、市の文化スポーツ課及びコリックス職員と連携会議を開く(二園の園長・分園責任者参加)
- ・お互いの事業の確認・連絡・連携を図ることができ、共有でき、つつがなく進めることができた。
- ・保育園が開園したことでコリックスにとって良い存在になるように心掛けた。
(七夕飾り、館内おみこしまわり、ミニ門松飾り、春の花、館内散歩など)
- ・保育内容としては、責任者を中心に充実した環境作りと保育の内容を心掛け、園児はのびのび成長できた。

V. ICTの導入

- ・初歩段階の取組みで、保護者の登降園の打刻とメールでの出欠連絡、緊急一斉メール配信等を実施
- ・ICT活用研修等を受講した。今後良い形で業務省略となり、職員等の余裕につながるよう推進していきたい。

VI. 安全に関して

- ・ICTの導入により、毎日の園児の出欠の確認がより確実となった。欠席の理由等を把握し、園児が健全に日々過ごせるように配慮・確認をしていった。
- ・園庭、園周辺の整備・安全確認
- ・保育室及び園内フリースペースの安全確認